

2025 年度大会開催案内

大会の概要と研究発表・パネルセッションの募集について

会場：京都大学吉田南構内 大会参加費：2000円

11月1日(土) 第1日

◆シンポジウム (13:00~16:50)

会場： 国際高等教育院 講義室32 (3階)

テーマ： 学校の思想史

司会： 板東 洋介 (東京大学)

発表者：

鈴木 蒼 (京都府立大学)

浅井 雅 (四日市大学)

尾原 宏之 (甲南大学)

コメンテーター：

高野 秀晴 (仁愛大学)

長尾 宗典 (筑波大学)

◆総会 (17:00~17:30)

◆懇親会 (18:00~20:00)

会場： 吉田南構内食堂

懇親会費：事前振込 5000円 (一般) ・ 3000円 (学生・非常勤)

当日払い 6000円 (一律)

11月2日(日) 第2日

◆研究発表・パネルセッション (終日)

会場： 吉田南1号館内

※時間は目安です。確定的な時間、研究発表・パネルセッションの詳細等は、大会プログラム(10月中旬学会HPに掲載予定)でお知らせ致します。

*応募要領

研究発表(発表25分、質疑応答15分)とパネルセッション(90分)を募集します。

研究発表は、日本思想史学に関する未発表の内容で、十分な学術水準を有しているものとします。申込み後に、大会委員会が発表要旨に基づき審査を行い、会長・総務委員会に報告の上、発表の可否を申込み者に通知します(9月中旬を目途に結果通知)。

またパネルセッションの申込みについては、上記に加えて以下の条件も満たすものとします。

(1)パネルの代表者が会員であること。

(2)少なくとも4名以上でパネルを構成し、3名以上が研究発表をおこなうこと。

(3)パネルの構成員の半数以上が会員であること。

(4)同一の機関に所属する構成員が2名を超えないこと。

応募される方は、氏名、所属、住所、E-mailアドレス、発表時に使用予定の設備(パソコン・AV機器・プロジェクター等)を明記の上、題目と要旨(研究発表は1200字以内、パネルセッションは2000字以内。テキストファイルとPDFファイル)を期日までに、E-mailにて、下記の2025年度大会実行委員会宛てにお送り下さい。その際、E-mailの件名は「2025 大会発表」、「2025 大会パネル」として下さい。

応募締切：8月31日(日) 必着

応募された方には、大会実行委員会から、書類を受理した

旨、確認のメールを必ず返信します。もし、提出後、一週間たっても確認メールが届かない場合には、大会実行委員会までお問い合わせください。

なお、今年度（本学会における 2024 年度）までの会費に未納分がある会員は応募資格を有しませんので、**必ず応募前にお納め下さい**。また、発表枠を超える多数の応募があった場合は、前回発表された方に発表をお控えいただく場合があります。

*参加申込みと諸費用納入

大会・懇親会への参加については、近日中にお送りする振込用紙（ゆうちょ銀行払込取扱票）による納入をもってお知らせ下さい。出欠等連絡用の葉書は用いませんのでご注意ください。開催準備の都合上、**納入は、9月30日（火）までお願いいたします**。上記期限を過ぎた場合、現地での当日支払いとなりますので、ご了承ください。

また、一度納入された参加費・懇親会費は、いかなる理由があっても返金には応じかねますので予めご了承ください。

*注意事項

- 大会開催中に学内に利用できる託児施設はありません。京都市内での民間保育園では休日の一時預かりをしているところもあります。詳しくは京都市情報館の「休日保育実施施設一覧」のウェブページをご覧ください。
- 宿泊施設は各自お早めにご予約下さい。
- 学内に駐車場のご用意はありません。

<日本思想史学会 2025 年度大会実行委員会>

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院教育学研究科

VAN STEENPAAL Niels 研究室

E-mail : vansteenpaal.niels.5w@kyoto-u.ac.jp

2025 年度日本思想史学会大会の開催にあたって

大会実行委員長 Niels VAN STEENPAAL
(京都大学)

今年 11 月 1 日（土）・2 日（日）の両日にわたって、京都大学の吉田南構内にて日本思想史学会 2025 年度大会を開催することとなりました。京大にとって 2004 年度以来、21 年ぶりの開催です。国立大学らしくキャンパス施設は（悪い意味で）何一つ変わっていないため、かつての開催運営計画をなぞった完コピの大会を目指していましたが、以下の二点でトラブって断念せざるをえませんでした。第一に、法人化後の施設使用料の高騰。第二に、学内の動員可能な日本思想史学会会員の激減。後者は多くの有志の先生方のご協力によってなんとか緩和することができたのですが、前者はどうにもならないため、ところどころ節約（響きがやや悪いので、お好みに応じて、古き良き「知足安分」か、最先端の「持続可能性」にでも置き換えてください）が必要となりました。皆

さんに違和感を覚えさせないように工夫しているので、具体的なことはここでは種明かししませんが、大会参加中のミニゲームとして「節約工夫探し」も一緒に楽しんでいただければ幸いです（免責事項：景品は用意しておりません）。冗談はさておき、本年度も充実したプログラムを安定した運営で提供します。シンポジウムの内容は本ニューズレターの案内とおりで、発表大会については今後の皆様のご応募をお待ちしております。千年の都の魅力に負けない大会を準備してまいりますので、ぜひ奮ってご参加ください。

（注意：近年度タニニュースにあがる京都のオーバーツーリズムは紛れもなくリアルな実態ですので、宿泊手配はお早目に済ました方が無難でしょう）

2025 年度大会シンポジウム

大会委員長 板東洋介（東京大学）

2020 年初頭以来のコロナ禍は、大半の学校のあり方を抜本的に変えてしまった。次第に常態に復しつつはあるものの、オンライン授業システムの急激な普及をはじめ、もはやコロナ以前には戻りえない変化も多いにちがいない。この激変のさ中であって、学校に関わる誰もが、学校を学校たらしめる最低条件は何かということを、一度は真剣に考えざるをえなくなったはずである。また情報通信技術がめざましい進歩を遂げて一定の閾値を越えるごとに、繰り返し学校不要論が噴出しもする。これも学校とはそもそも何か、という問いの一形態であろう。

こうした実社会における学校への問いとおそらくはゆるやかに連動しつつ、日本思想史学においても、学校というものへの主題的な関心が集まりつつある。

いわゆる「頂点思想家」を主役とする思想史の記述にあつては、その脇役のようにみなされがちであったさまざまな対象——学派・書籍・雑誌・新聞・読者等々が、近年、思想史の主役として改めてフォーカスされているが、学校もまた、その一つとしてスポットライトを浴びつつあるのである。古代から近現代にいたるさまざまな形態の学校は、ただ単にスター思想家たちの華々しい活躍の舞台あるいは背景としてのみ存在したわけではない。学知の伝達場として、官吏養成場として、民衆教化場として、立身出世の予備門として、国民の訓育場として、あるいは書籍のアーカイブ場として、日本思想史のうえで多様かつ重大な役割を果たし続けてきたのである。

もちろんこのように問うに際して、もともとの漢語「学校」と、足利学校・閑谷学校など前近代日本の「学校」と、近代学制下の「学校」とを同質のものと見て、日本思想史を貫流して不変の「学校」なるものが存続し続けたと捉えてしまうことは、厳につつまねばならない。しかし「学校」を制度化された知的伝達場として捉えておき、日本思想史におけるその連続と非連続を問うこと自体は可能であり、かつ妥当ではないだろうか。

このような趣意のもとに、学校の思想史を構想してみたい。

新入会員

《個人会員》

伊藤 嵩真	大阪大学大学院（戦後日本における社会民主主義）
加来（郭） 裕香	明治大学大学院（岡本太郎と石の神秘性）
辜 傲然	名古屋大学大学院（アジア主義と自由主義の交錯）
佐藤 岳流	京都大学大学院（明治日本の歴史意識の形成と国学者）
銭 立斌	東京大学大学院（近代日本と中国における煩悶と自殺）
武田 佑希子	北海学園大学大学院（近世国学者における黄泉比良坂解釈）
張 子一	東京大学大学院（「満支」の海外神社と「神社問題」）
杜 ニュウニュウ	東京大学大学院（和辻哲郎の日本古代文化観）
湯 林鑫	神戸市外国語大学大学院（近代日本の儒教研究者の政治思想）
泊 慎太郎	大阪大学大学院（阪神間地域における近代茶道史）
中島 敬介	奈良県立大学ユーラシア研究センター（日本古代思想、日本観光政策思想史）
朴 海仙	立命館大学衣笠総合研究機構（植民地朝鮮の民衆宗教）
村上 麻佑子	奈良女子大学（古代日本における貨幣の研究）
ライアン・エル・ハッサン	慶應義塾大学大学院（欧米における福沢諭吉思想の受容）
李 心羽	総合研究大学院大学 大学院（啓蒙思想家としての津田真道）
山下 亜加音	京都芸術大学大学院（室町時代のいけばな・諸芸の思想）

受贈図書

呉佩遥『近代日本の仏教思想と「信仰」』法蔵館
 大谷栄一・寺田喜朗編『森岡清美の宗教社会学：その検証と継承』法蔵館
 韓淑婷『「東洋道德、西洋芸術」幕末日本への視座：佐久間象山の儒学思想に関する研究』関西大学出版部
 常瀟琳『道理と風俗：水戸学と文明論の十九世紀』岩波書店
 武井謙悟『近代仏教儀礼論序説』法蔵館
 水野友晴責任編集『未来と救済・和解の哲学』丸善出版
 『國學院大學研究開発推進センター研究紀要』19号
 『民具マンスリー』57巻10～12号・58巻1～3号、神奈川大学日本常民文化研究所
 （前号発行以降寄贈分、発行年はすべて2025年）

会費納入のお願い

当学会の会計年度は、10月1日～翌年9月30日です。したがって、現在は2024年度（2024年10月1日～2025年9月30日）中ということになります。

本年度分の会費は、既に多くの方々から納付していただきました。どうも有難うございました。未納の方は、（それ以前の年度の会費も未納の場合はその分もあわせて）すみやかに納入してください。

会費納入用の郵便振替口座は下記のとおりです。

ゆうちょ銀行

振替口座記号番号：00920-3-196013

加入者名：日本思想史学会

また、他の金融機関からのお振込に際しては、下記の情報をご参照ください。

金融機関コード：9900（ゆうちょ銀行）

店名：〇九九 店（ゼロキュウキュウ店）

口座番号：0196013

加入者名：日本思想史学会

※ 2020年度請求分より、年会費は下記のとおりです。

常勤職にある会員 7,000 円

常勤職にない会員 5,000 円

海外在住会員 5,000 円

団体会員 3,500 円

※ 請求書で指定しております郵便振替払込用紙以外に、電信振替による学会口座への入金も受け付けます。

ただし、公費での処理を予定している方は、電信振替が事務手続き上、認められるか、事前に所属先にお問い合わせください。学会として関知しません。

新入会員の最初の会費、住所や所属先など会員情報の変更をとともう場合は、必ず郵便振替払込用紙を使って納付してください。

なお、2022・2023年度分の会費が未納の方には、2024年度末（2025年9月30日）発行予定の『日本思想史学』第57号はお送りいたしません。また、今年度分を含め3年分会費を滞納された方は、会則第4条に基づき、総務委員会の議を経て、3年目の年度末（9月30日）をもって退会扱いとなりますので、ご注意ください。

事務局より

① 連絡先の変更、学会へのお問い合わせ等は、事務局宛に電子メールまたは郵便（葉書・封書等）でご連絡ください。電話・FAXは受け付けておりません。

② 事務局では会員メーリングリストを運用しております。下記の方々は、ご確認ご検討のほど、よろしくお願い致します。

(1) そもそも名簿にメールアドレスを登録されていない方

・メール受信をご希望の方は、下記の事務局アドレスまでお知らせください。

(2) 名簿にメールアドレスを登録済みだが、受信できていない方（受信した覚えがない方）

・「迷惑メールボックス」に入ってしまった恐れがあります。

・受信自体を拒否されている場合もあります。今一度、設定をご確認ください。必要に応じて再登録を行いますので、下記の事務局アドレスまでお知らせください。

(3) 現在受信しているメールアドレスをあまり利用していない方

・ご希望に応じて他のメールアドレスの再登録を行いますので、下記の事務局アドレスまでお知らせください。

事務局アドレス ajih.jimukyoku@gmail.com

*会員メーリングリストへのアドレス登録、更新、削除はすべて事務局が行います。メールアドレスに変更が生じた際は、新しいアドレスで再登録いたしますので、ご一報ください。

③ 現在、事務局ではペーパーレス化を進めております。この『ニューズレター』は、夏季号も冬季号も、学会ウェブサイト上での公開と会員メーリングリストでの配信のみを原則とします。なお従来どおりの郵送をご希望の場合は、下記の事務局住所まで、その旨を郵便（葉書・封書等）でお知らせください。

④ 入会手続は初年度の会費の納入をもって完了します。入会承認のお知らせの後、すみやかに初年度分の会費を納入してくださいますようお願いします。

日本思想史学会 News Letter No.42 (夏季号) (通巻42号)

2025年7月29日発行 発行：日本思想史学会

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5

大阪大学大学院 人文学研究科

宇野田 尚哉 研究室内

E-Mail: ajih.jimukyoku@gmail.com

(幹事 平尾漱太)

WEB SITE: <http://ajih.jp/>

Association for Japanese Intellectual History